

09 連続講座〈沖縄・歴史と現在〉への賛同のお願い

ことし2009年は、1609年の薩摩・島津氏による琉球侵略から400年、1879年の日本国家による琉球処分から130年の節目の年にあたります。沖縄では本年1月30日にこの「400年」「130年」を「問う会」が結成され、シンポジウムなどが開催されています。

沖縄講座では、この〈沖縄からの問い〉に、どう日本(ヤマト)から呼応していくのか、改めて〈沖縄・歴史と現在〉を学ぶことを通じて、日本の〈アジアにおける侵略と戦争の近現代史〉を総括する視点を手放すことなく、考えたい。そんな思いから、以下の通り、09連続講座を企画しました。

みなさんの参加・賛同をお願いします。

★ ★ ★

第1回 1972〈復帰=再併合〉を問う 7月11日(土)14時 新横浜スペースオルタ

■長編ドキュメント『反国家宣言～非日本列島地図完成のためのノート』(16頁65分)

- ・「沖縄青年同盟の「沖縄語裁判闘争」からはじまり、非日本列島地図を描くように、大阪の沖縄人集落、1972復帰をはさむその前後の沖縄に移動、さらに八重山の台湾人移住者を訪ね、それから一挙に北へターンし北海道のアイヌへと至る旅の記録」(仲里効『沖縄 イメージの縁から』未来社2007)です。〈祖国復帰〉ではなく〈沖縄の解放〉を求めた沖縄青年同盟は、1971年の沖縄返還協定を審議した国会で爆竹を鳴らして抗議し「全ての沖縄人は団結して決起せよ」のピラをまいて逮捕され、裁判ではうちなーぐちで日本国家に異議を申し立て「沖縄語裁判闘争」を展開しました。1972年にプロダクション犀により制作され、続編の「アイヌ・シタツピリ」と合わせて山崎佑次監督自ら再編集し95年の山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映された貴重なフィルムです。山崎監督のご厚意をえて、横浜上映が実現しました。

■映像の解説と講演 仲里 効さん

- ・南大東島生まれ。元『EDGE』編集長。著書に『オキナワンビート』『ラウンドボーダー』『オキナワ、イメージの縁』、共著に『沖縄の記憶/日本の歴史』『複数の沖縄』編著『沖縄/暴力論』など。映画『夢幻琉球・つるヘンリー』共同脚本、2003山形国際ドキュメンタリー映画祭沖縄特集〈琉球電影列伝〉コーディネーター。『コンディションデルタ沖縄』制作。沖縄講座では2001年5月にも「島尾敏雄〈ヤポネシア論〉の射程」のテーマで仲里さんに講演していただきました。「反国家宣言」には、若き日の仲里さんも登場します。

第2回 沖縄・占領と現在 10月2日(金)18時半 かながわ県民サポートセンター

■講演 田仲 康博さん

- ・「占領が生み出した時空間に未だ囚われの身となっている沖縄において、今もっとも必要なことは、「復帰」の意味を問い直すことなのだ」(『イモとハダシ～占領と現在』所収「琉球大学とアメリカニズム」から)。国際基督教大学教員。専攻は社会学・メディア論・文化研究。共著に『沖縄に立ちすくむ』『メディア文化の権力作用』など。元『EDGE』編集委員。

★ ★ ★

2009年2月17日、日米外相会談で「在沖米海兵隊グアム移転協定」が署名され、国会承認案件として上程、政権与党の賛成多数で衆議院で議決、5月13日に参議院では野党の反対で否決されたものの、衆議院の議決が優先され、不当にも強行成立しました。この協定は、2006年5月の日米「合意」米軍再編ロードマップの内容を、条約に準ずるものとして既成事実化するための「米軍再編推進協定」です。協定では、これまで「抑止力の維持」とされていたものが「抑止力の強化」と表現され、米軍再編が「地元負担の軽減」どころか日米軍事再編・基地強化に他ならないことを自ら暴露しています。増え続ける米兵の事件・事故、キャンプハンセンで強化される実弾射撃訓練の被害、騒音をまぎ散らす嘉手納基地へのF22一時配備や、日米共同訓練など、基地強化の動きは顕著になっており、沖縄の人々の怒りを買っています。

日米両政府による沖縄の要塞化・軍事属領化の策動を許さず、日米軍事再編・基地強化に反対し、基地と軍隊のない社会をめざす闘いを、沖縄の人々と共に！

2009年5月

主催：沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座

後援：自治労横浜市従業員労働組合

賛同：基地撤去をめざす県央共闘会議 他

[連絡] Tel&Fax045-434-3896 深沢 <http://www7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

◇個人 1000円/口 団体 2000円/口 多くの賛同を！